サンポット石油暖房機 工事説明書 **FFR-562SX**

■取付工事店様へ

設置工事の前に、この工事説明書をよくお読みのうえ正しく据付けてください。

- なお、この工事説明書は、工事終了後に取扱説明書と一緒に必ずお客様にお渡しください。 ●ストーブを設置する場所には、電気設備に関する技術基準、火災予防条例に定められた設置をする必要が あります。各地区の市・町・村火災予防条例に従ってください。
- ●施工上の責任は当社では負いかねますので、万一施工上に起因する不具合が生じた場合は、貴店の保証規 定によって修理いただくようお願いいたします。
- ●ストーブ本体にテープで貼付けられている注意チラシなどは読んだ後取り除き、お客様にお渡しください。 ●取扱説明書に従って「特に注意していただきたいこと」「使用方法」「アフターサービス」「保証」について お客様に説明してください。

安全のために必ずお守りください



この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその 作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、また は火災の可能性が想定される内容を示しています。

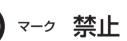
この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその

作業後の不具合によって使用者が傷害を負う可能性や物的損害の



● イラスト(まんが)の横にあるマークは次のように表しています。



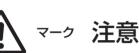












発生が想定される内容を示しています。

据付けや移設は、販売店または据付業者が 行ってください。

●お客様ご自身で据付けをされ、不備があると感電や火災の原因 になります。



据付けは火災予防条例、電気設備に関する技術 基準など法令の基準を守って行ってください。

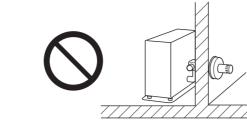


安全のために必ずお守りください(つづき)

⚠警告

屋内給排気禁止

●屋内に排気すると、排ガスが室内に充満 して危険です。 必ず屋外に排気してください。



床下給排気禁止

●床下に排気すると、排ガスが室内に漏れ て危険です。

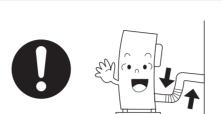


給排気筒を確実に接続

必ず屋外に排気してください。

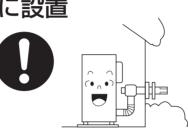
●給排気筒を確実に接続し、しっかりと固 定してください。 風、振動、衝撃などで外れたりすると運

転中に排ガスが室内に漏れて危険です。



給排気筒トップは閉そくしない場所に設置

●積雪が多いときに給排気筒トップの周り が雪でふさがれない場所に設置してくだ さい。また、板などによる「雪囲い」は給 排気の妨げになるのでおやめください。 運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。



注意

次の場所には据付けない

- 火災や予想しない事故の 原因になります
- ■水平でない場所、不安定な場所
- ■不安定な物をのせた棚などの下 ■可燃性ガスの発生する場所またはたまる場所
- ■付近に燃えやすいものがある場所
- ■階段、避難口などの付近で避難の支障となる場所
- ■温室、飼育室など人のいない場所
- ■標高1200m以上の高地

注意

可燃物との距離を離す 標準据付け例

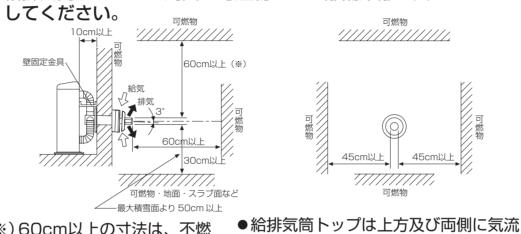
- ■ストーブから周囲の可燃物までの離隔距離は
- 図のようにしてください。 ●ストーブ右側面と壁面は保守点検のため30cm以上離してください。



●マントルピースなどストーブが囲われる場所に設置する場合 (ストーブは必ず壁面より内側に入らないこと。)



※保守点検のため30cm以上離してください。 ■ストーブに附属された置台の上に据付けること。 ■給排気筒トップから周囲の可燃物までの離隔距離は図のように



- 注(※)60cm以上の寸法は、不燃 材を使用する場合は30cm
- 以上とする。 ご注意
- を取り付けてください。 ●マントルピースなどストーブが囲われる場所に設置する場合の内部やそ の周辺は、できるだけ不燃材料又は準不燃材料あるいは防熱板で仕上げ

を阻止する障害物がないこと。

●雪の多い地方では、最高積雪面より

50cm以上離れる場所に、給排気筒

を行ってください。 ●上図では可燃物までの離隔距離を示していますが、保守点検や性能維持 のため、不燃物などの場合も上図離隔距離としてください(※部は除く)。

注意

油タンクとの距離を離す ●油タンクはストーブより2m以上離して 据付けるか、防火上有効な遮へいを設け てください。

据置式の油タンクは、不燃材の床上に据 付けること。



ゴム製送油管の屋外使用禁止 ●ゴム製送油管は屋外で使用しないでくだ

ひび割れを生じて油漏れの原因になります。 油漏れ確認

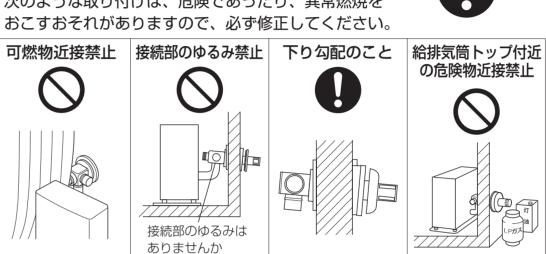


灯油が漏れていると火災のおそれがあります。 給排気筒の点検

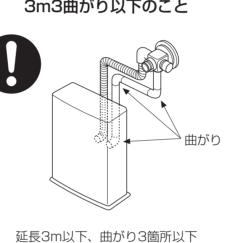
●据付けが終わりましたら、もう一度点検してください。 次のような取り付けは、危険であったり、異常燃焼を

●油タンク・ゴム製送油管・接続部およびストーブなど

から灯油漏れがないことを確認の上ご使用ください。

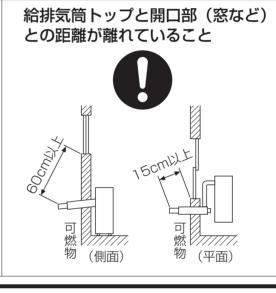






(本体出口の曲がり含む)

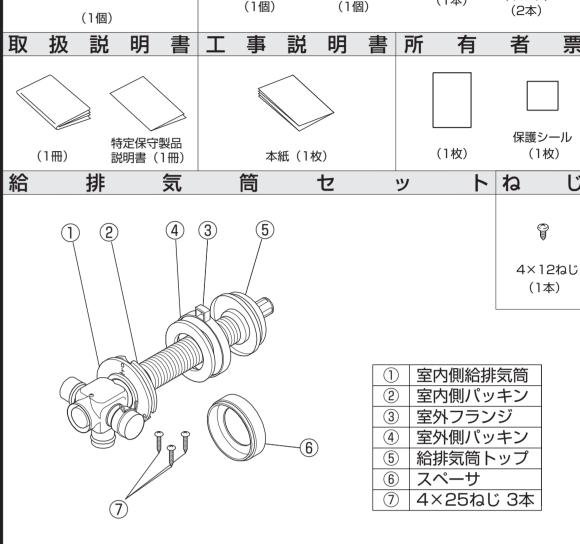
ご注意



●ダンボール箱からストーブを取り出し、パッキン材、テープなどを取り除いてください。

附属品の確認



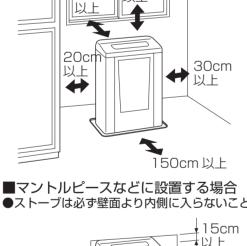


据付け

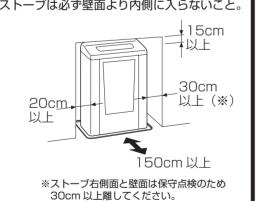
据付け場所の選定

ストーブから周囲の可燃物までの離隔距離は図のようにな る場所を選定してください。

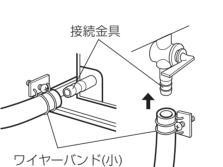
- ●燃えやすいものや障害物のない場所。
- ●水平で安定のよい、しっかりした場所。 ●ストーブを背面で固定できる場所。 ●電源は家庭用100Vの電源コンセントをご使用くだ
- さい。 (電源コードの有効長さは約2mです。) ●給排気筒が正しく屋外に取り出せる場所。 集合煙突には絶対に取り付けないでください。
- ●マントルピースなどストーブを囲われている場所に 設置する場合の内部やその周辺は、できるだけ不燃 ■マントルピースなどに設置する場合 材料又は準不燃材料あるいは防熱板で仕上げを行っ●ストーブは必ず壁面より内側に入らないこと てください。
- ●給排気筒トップは高温となります。小さなお子さま が触れるような場所や、通路、人通りのはげしい場 所には出さないでください。
- ●灯油を燃焼させるため、点火時や消火時ににおいが 出ます。給排気筒トップは、出入口に近い場所や外 気が室内に入りやすい場所に取り付けることを避け てください。



|||60cm|||



ゴム製送油管を接続金具の根元まで 差し込み、附属のワイヤーバンド(小) で固く締め付けてください。



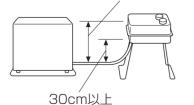
- ●ストーブ側接続金具にかぶせてあるキャップを外すとき、内部の残油が出ることがあり
- ■ゴム製送油管の先端や途中を極端に曲げて配管しないでください。最小の曲げ半径は 100mm程度以上としてください。
- ゴム製送油管にひび割れを生じて、油漏れの原因になります。
- ●ゴム製送油管は上に物をのせたり、重量物がのったり、空気溜りができるような形状に ならないようにしてください。 ●ゴム製送油管は、JIS S 3022「石油燃焼機器用ゴム製送油管」に合格したもの以外
- は使用しないでください。 ●送油管の屋外部分及び埋設部分は、防錆処理された鋼管、又は銅管(外径8mm、肉厚
- ●ゴム製送油管は紫外線があたると劣化が早くなります。できるだけ日光にあたらない場 所を選んでください。
- から配管してください。 定油面器から油があふれたり、電磁ポンプが故障する原因になります。

油タンクの組立てと据付け

据付け方法

油タンクを油タンク附属の取扱説明書に従って組立ててく ださい。

●油タンクは、油タンクの油面がストーブ設置床面より30cm 以上2m以内の高さになるように据付けてください。 ●油タンクは熱・振動・衝撃の少ない場所に据付けてください。

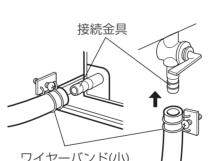


ご注意

●油タンクの据付けは、各地の火災予防条例に従ってください。

- ●油タンクは、ストーブとの間に防火上有効な壁などがない場合は、2m以上離してください。 火災の原因になります。
- ●油タンクは、油タンク内の油面がストーブ設置床面より2m以上高くなるところには据 付けないでください。
- 油が定油面器よりあふれ出ることがあります。

ゴム製送油管の取り付け



ますので、布などを当てて外してください。

- O.8mm)を使用してください。ゴム製送油管は使用しないでください。
- ●金属製送油管で配管する場合は、切断、加工時の切りくずや切粉をきれいに取り除いて

ストーブの固定

ストーブの固定は給排気筒を取り付けてから行ってください。

1.壁固定金具Bをストーブ背 面に使用されているねじで 固定してください。



2.壁固定金具Aを壁に固定してください。

壁の材質により次のように取り付けてください。

- ①木又は厚い合板の壁 木又は厚い合板の壁に固定する場合は、 附属のねじ(4×12)を使用して壁に 直接固定してください。
- ②

 モルタル、

 コンクリートの

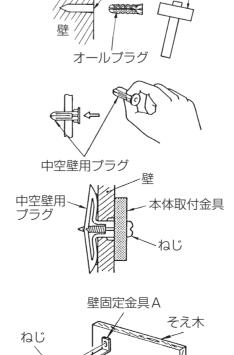
 壁 モルタル、コンクリートの壁に固定す る場合は、市販のコンクリート用プラ グ(ねじ径φ4用)を壁に打ち込み、
- ①項と同様に固定してください。 ③石膏ボード、薄い合板の壁 石膏ボード、薄い合板の壁などに固定 する場合は、市販の中空壁用プラグ (ねじ径 φ 4 用) を壁に打ち込み、①項 と同様に固定してください。 ④土壁、しっくい壁

土壁、しっくい壁などに固定する場合

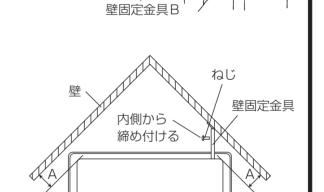
は、壁にそえ木をしてから、①項と同

様に固定してください。





3.ストーブを壁におしつけ、壁 固定金具A、Bを附属のねじ (4×6、2本、ボルト)で 固定してください。



壁固定 金具A

※コーナー設置の場合、A寸法は 10cm以上としてください。

●ストーブは附属の壁固定金具で必ず固定してください。 壁に固定できない場所での使用はおやめください。 ●コーナーに設置する場合、A寸法は必ず10cm以上としてください。

また、右側のA寸法は保守点検に十分な距離としてください。

給排気筒の取り付け 標準給排気方式の工事方法

■給排気筒及び工事部品は、給排気筒の呼び径D40の指定されたも のを使用してください。指定以外のものは使用しないでください。 ■附属している給排気筒セットは、壁の厚さが12cm以下、25cm

以上の壁には使用できません。 壁の厚さが12cm以下である場合は、別売部品の薄型給排気筒ス ペーサ、25cm以上の場合は薄型給排気筒延長アダプタを使用して

■給排気筒の端面(パイプの先端など)でケガをしないように、手袋

をはめて行ってください。

1.設置場所を決めてください。

2. 給排気筒の穴あけ位置を決めてください。

- ●この工事説明書の型紙(裏面)を壁に押し当てて、給排気筒穴位置を決め てください。
- ●壁固定金具取付け位置のねじ穴にも印をつけてください。 (穴位置が決まりましたら型紙をはがしてください。)

ご注意

- ●木造の建物で壁にメタルラス張り、ワイヤラス張りまたは金属板張りを してあるところに給排気筒を通す場合は、それらの金属部に接しないよ う電気的絶縁をしてください。
- ●壁に穴をあけるときは、壁内の鉄筋、電気・電話配線、ガス・水道配管 にあたらない場所を選んでください。

3. 壁に給排気筒の穴をあけてください。

- ●印を付けた位置に直径67~80mmの 穴を室内側から室外に向けて、下向き に約3°の傾斜であけてください。
- ●あけるとき、壁内の鉄筋、電気・電話配線、 ガス・水道配管に十分注意してください。

●穴は直径80mmより大きくならないように

してください。

●穴は必ず約3°の傾斜で下向きにあけてください。 雨水がストーブ内に入って異常燃焼したり、室内や壁内に浸入すること があります。

4. 給排気筒を分離してください。

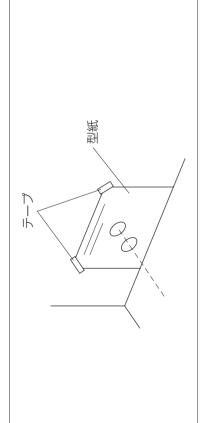
●附属の給排気筒を回して室内・室外側に分離してください。

裏面につづく

室内側 ゜。。。。。。。

給排気簡標準設置取付け型紙

型紙の使用方法1.型紙の下端を床に合せて壁に貼り付けてください。2.給排気筒穴位置に印をつけてください。同時に壁固定金具用穴位置にも印をつけてください。



給排気筒の取り付け(つづき)標準給排気方式の工事方法(つづき)5. 室内側給排気筒を壁穴に差し込んでください。・室内側パッキンを通し、壁穴に差し込んでください。・室内側パッキンを通し、壁穴に差し込んでください。

六 位 置

八田川

出

韓田定



域では、雨水の壁内浸入 塗布してください。 ●雨水が激しくかかるところを防ぐため、ねじ込み部に

7. 室内側給排気筒の室内フランジを固定してください。
 ●室内フランジを「上」の文字が上になるように、附属のねじ(4×25、3本)で壁に固定。してください。

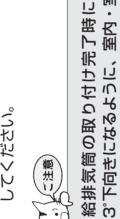
ド線を接続し 8.排気管抜け検知リー てください。 ①ストーブ背面に固定してあ ード線をストーブより外し ②排気管抜け検知リード線の で固定してください。



事様気管接続部へのストッパーリングの取り付けや排気管抜け検知リード線の先端の端子固定を確実に行って、接触不良を起こさないようにしてください。
 排気管の接続部が外れていたり、排気管抜け検知リード線が正しく接続されていないと、『E40』を表示し点火できません。
 リード線は給排気筒の高温部に触れないようにしてください。

接気口中心

9. 給排気筒トップを固定してください。
 ●室外フランジのつまみが上になるように、つ 室外まみを持って壁面に押え付けながら、給排気筒トップをさらにねじ込んでしっかりと固定してください。



給排気筒の取り付け完了B 3°下向きになるように、室内 の取り付け向きには十分注意 雨水がストーブ内に入り異常 内や壁内に浸入することがあ

2~15cmの場合は附属のスペーサを倒してください。 - サを室外側給排気筒に通してください。 筒内の結露水で壁が汚れるおそれが 合や寒冷地などで給排気筒の先端が 3 セスカギエス 担合 <u>壁厚が12~</u> ●スペー

、てください。

スペーサを室外側給排気筒無給排気筒内の結露水で壁がある場合や寒冷地などで給 が結するおそれがある場合 水結するおそれがある場合スペーサを使用し、給排気筒 してください。(壁の厚さは

●完全にコーキングしないと、雨水が室内や壁内に浸入することがあります。 10.室外フランジ部(塗ってください。

穴 (直径67~80mm) の中心がこの範囲内に あること。

給排気筒穴位置

標準設置

11.ストーブより排気管エルボを外してください。

12.排気管エルボに附属の排気管断 熱カバーをかぶせてください。 13.排気管エルボを給排気筒に取り付けてください。 ①室内側給排気筒の排気口に排気管エルボを差し、 ●ストッパーを固定しているねじ2本 気管エルボを外してください。

①室内側給排気筒の排気口| し込んでください。 ②差し込み部のリブをはさ/ -リングをかけてくださ(

14.ストーブと排気管エルボを接続 してください。 ①ストーブを動かし、ストーブの排気口に排気 管エルボを2段目のリブが完全にストーブ内 に入るまで差し込んで、接続してください。 ②ストッパーを排気管エルボに押し当て、ねじ 2本を締め付けてください。

くだない。

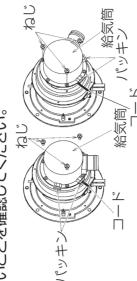
トースを給排気筒に固定して - Aに附属のワイヤーバンド (大) を から、給気ホースを給排気筒の給気口 まで差し込み、ワイヤーバンド (大)



①給気ホースに附属のワイヤーバンド(大)を 通してから、給気ホースを給排気筒の給気口 のリブまで差し込み、ワイヤーバンド(大) で締めて固定してください。 ②給気口は2箇所ありますので、使用しない給 気口には給気口キャップを取り付け、ピンバ ンドで固定しておいてください。 ③排気管抜け検知リード線を給気ホースにビニ 帯で固定してください。(ビニ帯は電源コー ドをたばねているものを使用してください。) が分なリード線をビニ帯でたばねてください。)

給気筒の角度変更

●ねじ3本で給気筒の角度を変えることができます。 角度を変更する場合は下記に注意して行ってください。 (1)給気筒にコードがかまれないように注意してください。 (2)給気筒とパッキンにすき間がないことを確認してください。 (3)取り外したねじを必ず使用 してください。 10mm以上の長いねじを使用 用するとねじがファンに当 りファンが回らなくなります。



壁固定金具による本体の固定 給排気筒の取り付けが終わりましたら、ストーブ と壁とを附属の壁固定金具で固定してください。

延長給排気方式・高地使用時の工事方法

ないことを確認し

○の「※」を描すと「EO」→「E1」→「E2」と切換り、⑥の 『※』を描すと「E2」→「E1]→「E0」と戻ります。 延長調節 **高地調節** ®の『時』を押すと「HO」→ 「H1」→「H2」→「H3」と切換 り、©の『分』を押すと「H3」→ 「H2」→「H1」→「H0」と戻り ます。

延長条件 標準設置 排気管エルボ 1 個追加 排気管エルボ 2 個追加 自在管追加 1.0~2.0m未満 2.0~3.0m以下

:「HOEO」 字が大きいほと :管エルボ1個) 標高 0~400m ~600m ~900m ~1200l

試運転

廃棄するときの注意

棄するときは、)支障となります ●ストーブを廃 リサイクルの3

位 置 接続